

平成25年第3回定例会(第3日)

<p>質問者 鈴木広康 (公明党仙台市議員)</p>	<p>質問内容 【2020年東京オリンピック決定についての市長の感想】 九月八日、日本時間早朝五時二十分、二〇二〇年オリンピック・パラリンピックが東京で行われることが決定しました。その瞬間を私も戻ってしまいました。が、思わず、よしとガッツポーズになりました。実に五十六年ぶりの開催になりました。七年後の開催であります。日本全体にとつての世界的イベントであり、日本人一人一人が、または各自自治体単位で、みずからも参加したというあかしが残るようなオリンピックにできればと思うものであります。 このたびの二〇二〇年東京オリンピック決定を聞いて、市長はどのような感想を持ったのか、お伺いします。</p>	<p>当局の答弁内容 まず、東京オリンピック開催の決定を受けての感想についてでございます。関係者の方々が気持ちを一つにし、取り組まれた結果であります東京の開催の決定を、私も大変うれしく感じておるところであります。これまでの御努力に対して改めて敬意を表したいと思います。 開催に当たりましては、宮城スタジアムでのサッカーの予選試合のほか、被災地での聖火リレーなども計画されているとおっております。市民一人お一人が二〇二〇年東京オリンピック・パラリンピックを身近に感じることができよう、期待をしております。 本市といたしましても、選手や観戦の方々を初め、国内外からのお客様をおもてなしの心でお迎えするとともに、被災地の復興の姿をこらんにいただくことができるよう、この世界的なイベントを支える役割に積極的にいかかわりながら、開催地東京とともに盛り上げてまいりたいと考えております。</p>
------------------------------------	---	---

【テーマ】選挙結果について

平成25年第3回定例会(第2日)

質問者	質問内容	当局的答弁内容
<p>加藤和彦 (自由民主党・仙台)</p>	<p>【今回の市長選の選挙結果(選挙への関心が低調。過去最低の投票率。無効投票7184票)をどのように受け止めているか】</p> <p>七月の参議院選挙からインターネット利用が解禁された現在では、どこにいっても世界中がわかるほど情報網と送受信装置が発達し、市民は市の情報だけでなく、客観的な情報も比較検討している中で、市長の考え方が市民のため役に立つかどうかを、市民の立場で判断する時代になっております。選挙への関心が低調で、市民にどうせ無風選挙という印象を強く持たれた結果、三〇・一％という過去最低の投票率となり、無効投票は七千八百八十四票に上りました。結果としては、七割を超える得票率を得て大差で再任されましたが、有権者八十四万人のうち五十九万人が棄権したという事実は大変重たいものです。奥山市長は、今回の選挙結果をどのように受け止めているか、まず、お伺いします。</p>	<p>続きまして、市長選挙に対します所見及び今後の市政運営についてのお尋ねでございます。さきまきの市長選挙は、本市の復興と未来へ向けての進むべき道が問われた選挙であり、投票率が低い水準にとどまりましたことは、さまざまに要因を考慮いたしましたも、なお大変残念な事態と考えるところでございます。今後、多くの機会を捉えまして、私自身の目指します市政の方向性を丁寧に御説明をし、御理解を頂戴してまいりますとともに、市民の皆様からいただいたさまざまな負託を重く受けとめ、改めて気持ちを引き締めまして、これからの四年間に臨んでまいります決意でございます。</p>
<p>安孫子雅浩 (市民フォーラム仙台)</p>	<p>【選挙結果を通じて何に気付き、どのような二期目の抱負を持ったか】</p> <p>さて、市長選挙戦中、支援した議員は、それぞれの地元地域などで個人演説会を開催いたしました。それらの個人演説会には奥山市長が住民の中に入り、直接みずから肉声により意思を伝え、また意見を伺うよい機会になりましたものと思います。市長は、これら選挙戦を通しての市民との出会いの中で、何に気づき、また二期目の抱負をお持ちになられたのか、まず、お伺いをいたします。</p>	<p>続きまして、二期目の市政運営に関しましての観点のお尋ねでございます。本市は、復興のトップランナーとして着実に各般のプロジェクトを推進してまいりましたが、さきの市長選挙を通じて、復興は全体の枠組みづくりの段階からお一人お一人の生活再建へと着実にその段階を進めていくと改めて実感したところでございます。しかしながら、復興と公営住宅について人居ができるのかということでありますとか、また、仮設での暮らしが一体いつまで続くのか見通しが持てないといったような切実なお声も伺ったところでありまして、早期の復興へ向けての決意を改めて固めますとともに、引き続き、迅速な復興に臨んでまいっている所存でございます。</p>
<p>庄司俊希 (復興仙台)</p>	<p>【今回の市長選挙で示された厳しい現実(無効投票率、7000票以上の無効票)をどのように受け止め、今後どう対応していくのか、市長の所見】</p> <p>ところで、前の質疑でもありましたが、私からも今回の市長選挙で示された厳しい現実をしっかりと受け止めなければならぬと申し上げたいと思います。有権者八十四万人のうち五十九万人が棄権し、投票率は前回の四四・七二％を大幅に下回る過去最低の三〇・一％、政権支持率なら危険水域すれすれの数字であります。宮城野区、若林区では三〇％を割りました。また、無効票が前回から倍増し、七千票以上もあったことは、投票所に足を運んだ上で、あえて候補者に投票しなかった有権者が大幅にふえたことを意味しています。特に、現職市長としては、無関心による棄権以上に、市政への意識的で痛烈な批判を受けとめるべきではないでしょうか。この厳しい民意をどう受けとめ、今後の市政運営でどう対応していくのか、あわせて市長の真摯な御所見をお伺いいたします。</p>	<p>まず、これからの市政運営についてのお尋ねでございます。二期目の第三十四代仙台市長への就任に当たりました。私は挑戦、すなわちチャレンジを、二期目の市政のキーワードに掲げさせていただきます。今後の市政における第一の挑戦は、折り返しを迎えました震災復興計画のさらなる加速的な推進であります。被災された全ての方々が、温かな我が家へ戻る事ができますよう、お一人お一人の立場に立ち、生活再建への道筋を御一緒に考えて、取り組んでまいりたいと思っております。結果として、お一人お一人の力を結集し、取り組んでまいりたいと思っております。加えて、さらなるチャレンジは、仙台が大きく飛躍するための土台づくりを、復興と同時に並行で進めてまいりますこととさせていただきます。中でも地域経済の持続的な発展に向けた基礎づくりは、最重要の課題と認識するところであります。地下鉄東西線の開業を着実に視野に入れ、新規開業の促進による雇用の受け皿の確保や、新展示施設や水族館を活用しての交流人口の拡大などに力を注いでまいります。これからの四年間は、手応えのある結果を挙げていただくため、極めて重要な時期であり、さきの市長選挙におきます投票率を重く受けとめ、さらなる丁寧な市民の皆様への御説明に努めますとともに、断固たる決意のもと、市政運営に邁進してまいります覚悟でございます。</p>

平成25年第3回定例会(第3日)

質問者	質問内容	当局の答弁内容
<p>花木則彰 (日本共産党仙台市議団)</p>	<p>【市長は前回の選挙で批判票を投じた方、投票しなかった方々も含めた106万市民の声に真摯に耳を傾け、市政に生かすことに心を砕くべきではないか】</p> <p>先月行われた仙台市長選挙で私たち日本共産党仙台市議団は、いのち、緑、平和を守るみんなの会の角野達也候補を全力で支援し、仙台市の市政が被災者や市民にとって優しい市政となるよう転換を訴えました。政党支持の壁を超えて多くの市民が同じ思いで力を出し合った結果、投票した方の四人に一人の得票を得ました。</p> <p>また、市長選挙の投票率は三〇・一％と史上最低となり、七割の市民は投票所に行くことがありませんでした。再選された奥山市長の絶対得票率は二割程度しかありません。市長は、批判票を投じた方、投票をしなかった方々も含めた百六万市民の声に真摯に耳を傾け、市政に生かすことに心を砕くべきです。いかがでしょうか。</p>	<p>まず、市長選挙とこれからの市政運営についてのお尋ねでございます。今回の市長選挙におきましては、復興計画の折り返しを迎えて、その継続性と、さらに復興の先を見据えた本市のまちづくりのあり方が問われたところと考えてございます。</p> <p>投票率は低迷をいたしました。前回を上回る御支持をいただきましたことは、私のこれまでの市政運営をさらに前へと進めるべく、市民の皆様から負託をいただいたものと受けとめましても、改めて、その重さに身の引き締まる思いでございます。これからの四年間におきましても、市民の皆様との対話を基本に据え、市政運営に邁進してまいります。</p>
<p>大槻正俊 (社民党仙台市議団)</p>	<p>【史上最低の低い投票率の仙台市長選挙をどのように受け止めているか】</p> <p>八月十一日投票で仙台市長選挙が行われました。残念ながら史上最低という低い投票率となりましたが、市長は、どのように受けとめておられるのか、まず御所見をお伺いいたします。</p>	<p>まず、市長選挙に対する所見並びに今後の市政運営についてのお尋ねでございます。</p> <p>このたびの選挙におきまして投票率が低調でありましたことは、まことに重く受けとめなければならぬと考えておりますけれども、そのような状況におきましても、前回を上回る形で御支持をいただき、これまでの市政に対して信任が得られたものと考えているところでございます。</p>